

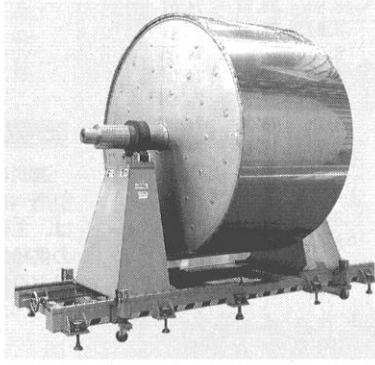
日本列島
情報ネット

北陸・信越版

日鉄工材
チタン製電着ドラム
次世代機を開発
高機能銅箔
製造に寄与

チタン製電着ドラム、冷間圧延ステンレスフラットバーなどの日鉄工材(本社・上越市、社長・宮原光雄氏)は製品の高品質・高機能化を推進すべく加工設備の増強を行っている。同社のチタン製電着ドラムにより製造される高級電解銅箔は電気自動車用リチウムイオン電池やスマートフォン・5G用電子回路基板などに使用されている。銅箔の需要は旺盛で、電着ドラムの需要は今後さらに伸びる見通し。

同社のシェアは世界 E X[®](アプレックス)を発売し、販売を開始して、製品トップであり、50年以上の製造実績と独自の X や EXCELLEN 術を結集して次世代の T などの組み合わせに最高峰ドラム「APL」による造語」 写真



を発売し、販売を開始して、製品となる銅箔へのヒード A P L E X[®]の最大の特徴は溶接ヒード部と母材部のコントラスト(組織差)を極限ま

ステンレスフラット
バー研磨を内製化

冷間圧延ステンレスフラットバーでは、国内唯一のフラットバー用下地砥石研磨機と仕上げ#400研磨機を今春導入した。素材

化を可能にしており、銅箔の高品質化を通じて電気自動車用リチウムイオン電池等の高性能化に貢献できる。

同社は今年が最終年度となる中期経営計画で電着ドラムの加工設備増強、工場増設と整備に加え、若手育成や多能工化などで生産能力を着実に上げてきた。

宮原社長は「今後も生産性向上や人材育成をさらに進め、旺盛な需要に対応することも、高級銅箔の薄肉化、高品質化に貢献していく」と展望を語る。

を社内だけで製造できる体制を確立した。意匠性が要求される用途への拡販を進めているフラットバー、配管パイプ、産業機器では、日本製鉄や日鉄ステンレスと連携し、顧客の新たなニーズに適合した新材質、独自材質のラインナップを拡充す

る。例えば SUS304 に比べ耐食性、強度、耐摩耗性に優れた省合金型二相ステンレスを採用したフラットバーの製造技術を新たに確立。SUS304からの置換だけでなく、他材質からのステンレス化を推進する。